

# 第45回 高知女子大学看護学会



## 人生百年時代の 看護のSHIFT (シフト)

ある研究では2007年に日本で生まれた子どもの半分以上が107歳より長く生きると推計されています。人生百年時代の到来は、人の人生への考え方、人生の過ごし方を根本から変えていくでしょう。それに伴い、ケアのあり方も変わっていく必要があります。人が100年という長い期間をより充実し過ごせるように看護は何をすべきなのか。看護がSHIFTする未来について考えていこうと思います。

**開催日時 : 2019年7月20日(土) 10:00~15:30**

**午前の部**

**講演テーマ: 「人生百年時代と健康格差」**

**\* 講師 高木廣文先生 天使大学副学長/看護栄養学部看護学科教授**

**午後の部 ワークショップ 7題**

**開催場所 : 高知県立大学池キャンパス**

**参加費 : 学会員 無料 一般2,000円 学生1,000円**

■認定看護師・認定看護管理者更新審査の自己研鑽実績加算対象

最新の情報は、高知女子大学看護学会ホームページまたはFacebookをご覧ください。

学会HP  
QRコード



# 第45回 高知女子大学看護学会プログラム

10:00 ~ 開会の挨拶

10:20 ~ 講演「人生百年時代と健康格差」

講師 高木廣文先生 天使大学副学長/看護栄養学部看護学科教授

13:30 ~ ワークショップ7題

学会HP  
QRコード



## ワークショップ1 人生百年時代に向けての仕組みづくり 多職種協働

健康は、個人の自助努力だけでなく個人を取り巻く様々な環境「社会的決定要因」を考慮する必要があります。人々が地域で自分らしく暮らすことを支える地域づくり、人々の主体的な選択を支援する仕組みづくりなどについて、行政・福祉・看護など様々な立場から意見交換し考えていきたいと思ひます。

話題提供者:野口裕子(高知県中央西福祉保健所健康障害課) 三橋沢実(高知市高齢者支援課)

## ワークショップ2 人生百年時代 老年期の多様な生き方を支える

高齢者の多様な生き方を支える取り組みとして、厚労省は、多様なライフスタイルを可能にする高齢期の自立支援、地域社会への参画促進など4つの課題を設定しています。実際のところこれってどういうことなのか…今高齢者保健医療の現場で起きていることをみつめなおし、未来について考えていきたいと思ひます。

話題提供者:小菅樹里(高知市高齢者支援課) 森下幸子(高知県立大学)

## ワークショップ3 病と共に生きる百年

医療の進歩と超高齢化が進む中、今後の医療において、加齢に伴う全身疾患や慢性疾患を抱えながら生活する人が多くなり、慢性期医療のニーズは高まっていると考へます。このような状況における医療や看護について考えていきたいと思ひます。

話題提供者:益宏美(高知県立大学) 安岡しずか(高知中央訪問看護ステーション 高知中央居宅介護支援事業所 高知中央相談支援事業所 統括管理者)

## ワークショップ4 人生百年時代を担う子どもの力

人生百年時代を生きる子どもを取り巻く環境は、健康格差や地域におけるつながりの希薄さ、核家族化による子育ての孤立化など、厳しい状況下にあります。様々な健康レベルにあるすべての子どもが、健やかに成長・発達し生きる力を培っていくための、地域、医療、教育が連携、協働した子どもや家族への支援について考えていきたいと思ひます。

話題提供者:中野靖子(高知学園短期大学) 源田美香(高知県立大学)

## ワークショップ5 人生百年時代のライフキャリア

キャリアとは自らの社会での存在意義のことです。あなたは、将来のキャリアに向けて、もうギアチェンジをしていますか。それとも、まさに今自分の将来について考へていますか。このワークショップではいろいろな視点から、長くなった人生をどう生きていくのか、ライフキャリアについて考へていきたいと思ひます。

話題提供者:松森美和(土佐病院) 岩崎美幸(高知医療センター)

## ワークショップ6 人生百年時代 新しいアプローチの開発

高齢化先進国高知では、全国に先駆け、ノーリフト(腰痛予防対策)の知識を活かし、ケアの質の向上を考へていく活動が始まっています。その取り組みとともに、世界のノーリフト先進国オーストラリアでの取り組みの実際を聞き、人生百年時代に向けた新しいアプローチの開発し実践でいかしていくってどういうことなのか考へていきたいと思ひます。

話題提供者:下元佳子(一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表) 寺尾香里(高知県立大学看護学 研究科博士前期課程)

## ワークショップ7 人生百年時代のキャリアデザイン

人生百年時代における新卒看護師はいったい何十年、専門職として社会に貢献していくことになるのか、多様化する時代の中でどのようなキャリアの積み方があるのか。卒後3~4年目の看護職が学生時代から紆余曲折に歩んできた道のりと今後の展望についてお話を伺い、これからの長きにわたる専門職としてのキャリアをどのようにデザインしていくのかを考へていきたいと思ひます。

話題提供者:井上可菜(高知赤十字病院) 芝萌乃(公益社団法人高知県看護協会訪問看護ステーション) 西岡志織(幡多福祉保健所健康障害課) 宮地友里奈(本山小学校) 山下雄平(高知医療センター)